

2023年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート調査実施状況

1. 2023年度回答者内訳

研究科	M 1			M 2			全 体		
	在学者	回答者	回答率	在学者	回答者	回答率	在学者	回答者	回答率
地域文化研究科	15	6	40%	27	10	37%	42	16	38%
地域産業研究科	3	0	0%	7	0	0%	10	0	0%
法学研究科	5	0	0%	6	0	0%	11	0	0%
合 計	23	6	26%	40	10	25%	63	16	25%

※学生数は、2024年3月1日付学生数による。

2. アンケート実施期間

2023年12月22日～2024年3月1日

3. アンケート告知方法

(1)キャンパススクエア内の掲示板「2023年度 大学院教育研究の向上に関するアンケートについて」およびメール送信にて通知

4. アンケート回収方法

(1)Webアンケート(Googleフォーム)での回答(16件)

(参考)過去3年間(2020～2022年度) 回答者内訳

【2022年度回答者内訳】

研究科	M 1			M 2			全 体		
	在学者	回答者	回答率	在学者	回答者	回答率	在学者	回答者	回答率
地域文化研究科	18	12	67%	24	7	29%	42	19	45%
地域産業研究科	5	2	40%	8	1	13%	13	3	23%
法学研究科	6	0	0%	6	0	0%	12	0	0%
合 計	29	14	48%	38	8	21%	67	22	33%

【2021年度回答者内訳】

研究科	M 1			M 2			全 体		
	在学者	回答者	回答率	在学者	回答者	回答率	在学者	回答者	回答率
地域文化研究科	19	7	37%	18	7	39%	37	14	38%
地域産業研究科	6	4	67%	6	2	33%	12	6	50%
法学研究科	5	0	0%	5	2	40%	10	2	20%
合 計	30	11	37%	29	11	38%	59	22	37%

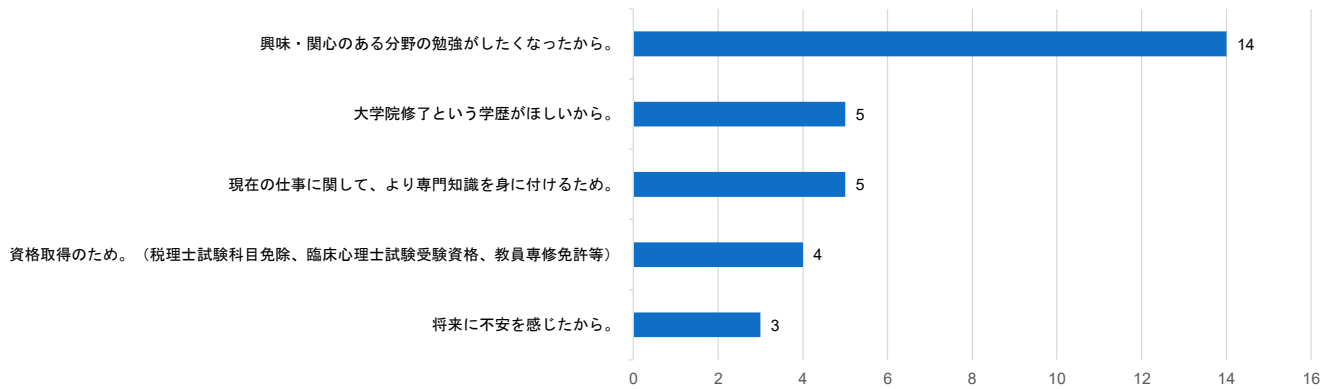
【2020年度回答者内訳】

研究科	M 1			M 2			全 体		
	在学者	回答者	回答率	在学者	回答者	回答率	在学者	回答者	回答率
地域文化研究科	13	9	69%	19	5	26%	32	14	44%
地域産業研究科	3	2	67%	12	5	42%	15	7	47%
法学研究科	4	2	50%	7	0	0%	11	2	18%
合 計	20	13	65%	38	10	26%	58	23	40%

2.進学理由（複数回答）

単位：件数

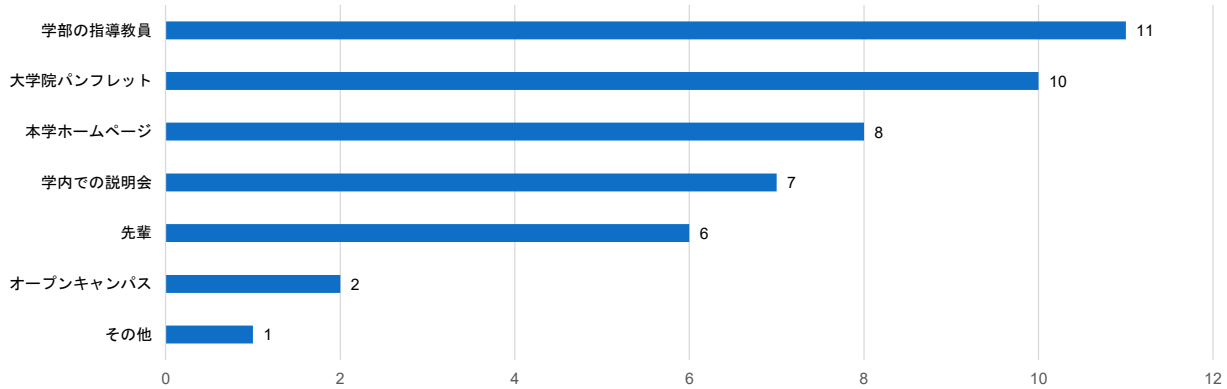
■地域文化研究科



3.あなたが本学大学院に進学するにあたり、情報をどこで得ましたか。（複数回答可）

単位：件数

■地域文化研究科

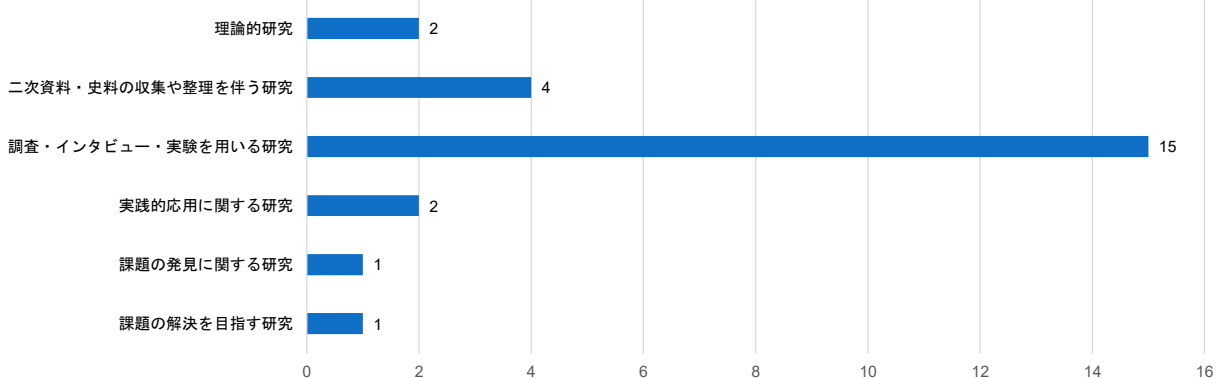


4.あなたの研究についてお尋ねします。

①現在、あなたの行っている研究はどのようなものですか。以下に示すそれぞれの特性についてチェックを付けてください。（複数回答可）

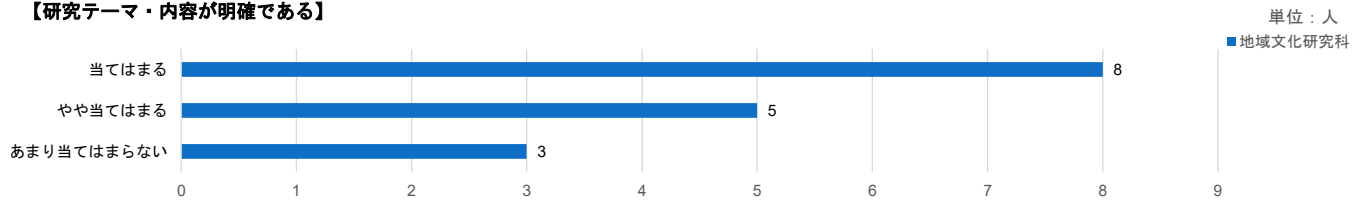
単位：件数

■地域文化研究科

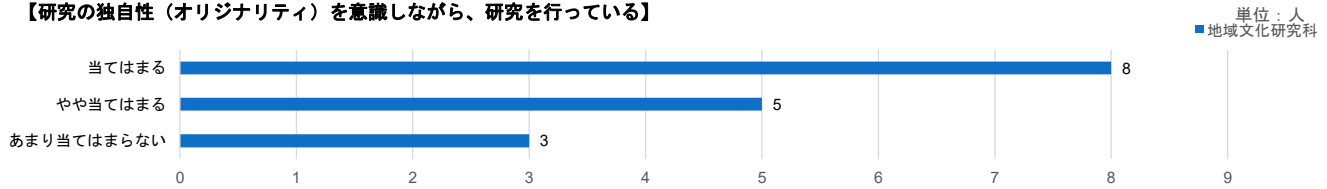


②現時点での研究の状況

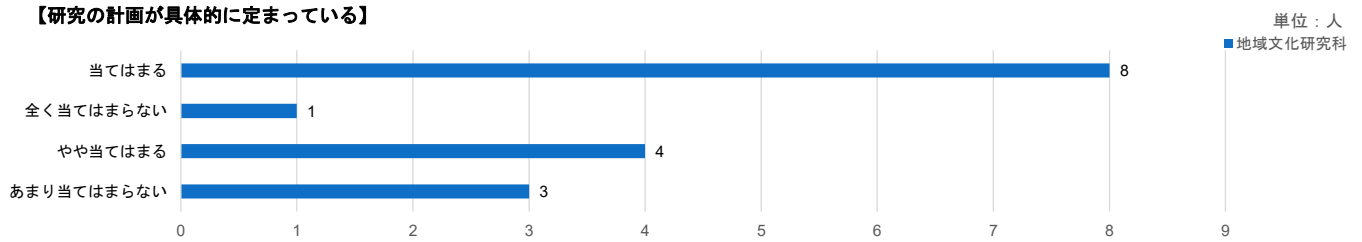
【研究テーマ・内容が明確である】



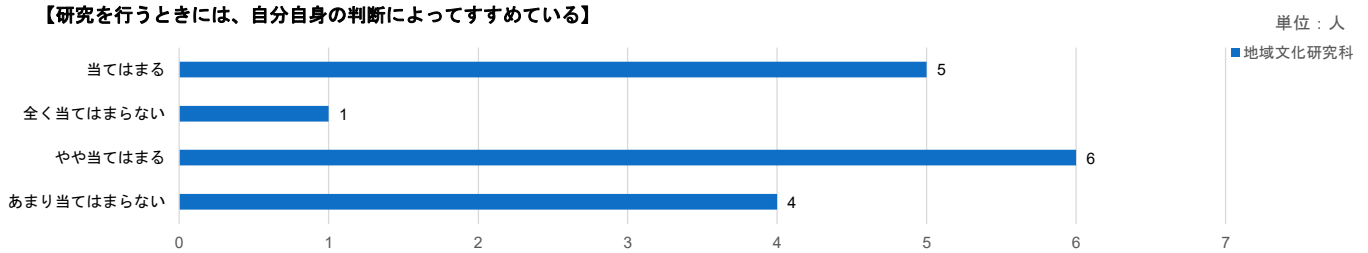
【研究の独自性（オリジナリティ）を意識しながら、研究を行っている】



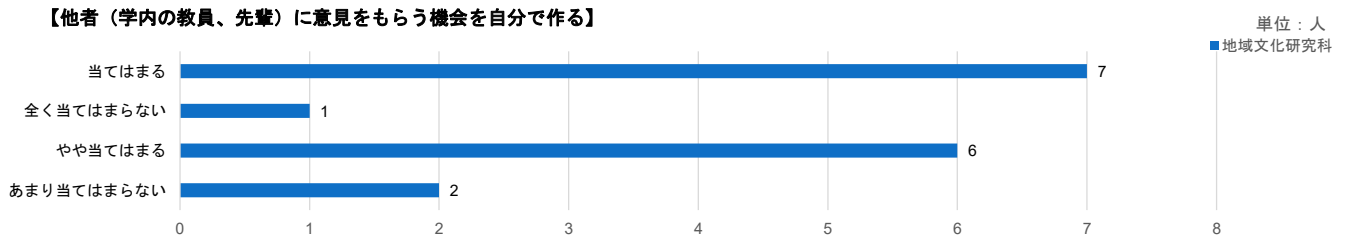
【研究の計画が具体的に定まっている】



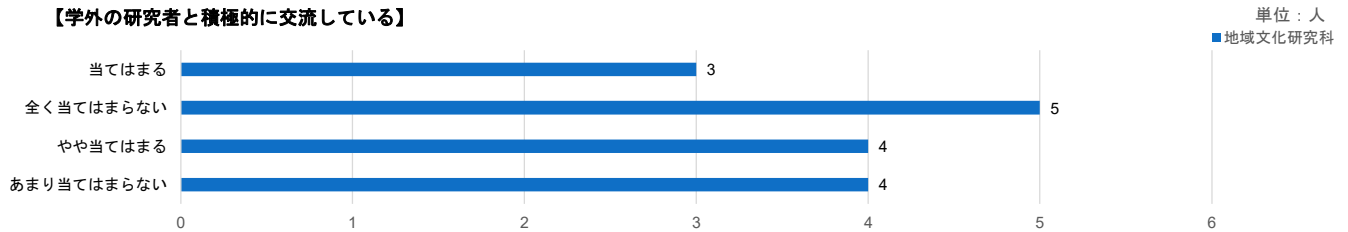
【研究を行うときには、自分自身の判断によってすすめている】



【他者（学内の教員、先輩）に意見をもらう機会を自分で作る】

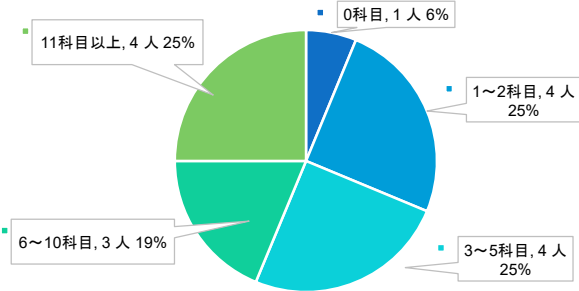


【学外の研究者と積極的に交流している】

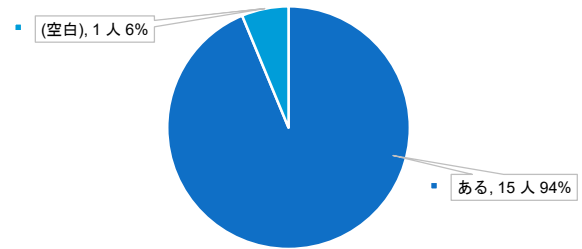


5.今年度に大学院で開講されている授業についてお尋ねします。

①今年度、あなたは何科目履修しましたか。



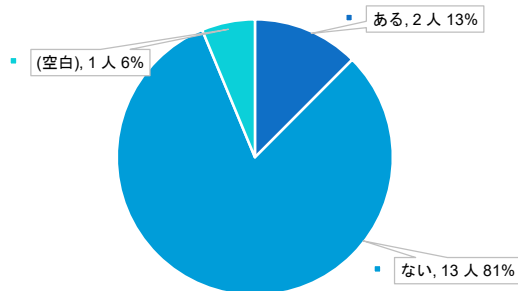
②(1)その中で今後あなたが研究をすすめるにあたって、大いに役立つと思う科目がありましたか。



②(2)研究に役立つと思った科目名、(3)理由

所属	科目名	理由
地域文化研究科	実践演習など	学部とは異なり、実際の現場にそった学びができる点
地域文化研究科	南島民俗宗教特論1	自分の知り得た知識や経験、調査内容などを調査地に赴いて説明したり発表するなどする先生の授業スタイルは、とてもわかりやすく、興味深かった。先生の話し方や説明、活動、人への接し方などは、自分の研究を社会に還元する立場となった時に必要となる力だと感じた。
地域文化研究科	南島語学特論	語の分析や研究の方向性を考える材料を得ることが出来たり、同世代の言語学研究者ネットワーク形成のきっかけが出来た。
地域文化研究科	全ての科目	実践的な学びと理論的な学びがある点
地域文化研究科	地域共生社会特論	他の領域の学生の視点を学ぶことができた
地域文化研究科	日本古典文学特論ⅡB	古典の芸術性を深く考えることができる点。教養が深まり、世代を超えて話ができるようになった。
地域文化研究科	英語学特論	研究を進めるに当たり、具体的なアドバイスを頂いた点。
地域文化研究科	日本語文化特殊研究	研究する上での方法や情報
地域文化研究科	南島民俗文化特論1	論文の作成方法、視点
地域文化研究科	ゼミ	自分がやりたい研究に何が必要で、何が足りないのかをしっかりと教えてくれる。ゼミ仲間や先生と一緒に様々なディスカッションをして、有意義な時間を過ごせることができる。
地域文化研究科	社会言語学特論	さまざまな理論など
地域文化研究科	言語教育学特殊研究ⅡD	自分の研究の進捗状況や困っていることをゼミ生と指導教官の間でディスカッションしながら、進めることができたため
地域文化研究科	南島民俗宗教特論	民俗学という学問の性質上、フィールドワークという手法により地域の理解を努めることは重要な要素であるが、大学院における講義はどうしても座学が中心となる。その中で本講義はフィールドワークを中心とした手法を講義に取り入れており、その特異点は私の学びと学問への理解を深める要因となった。
地域文化研究科	琉球芸能特論	研究テーマの芸能活動の継承と関連する議論ができた
地域文化研究科	ゼミ	修士論文についてご指導いただきました。先行研究のまとめや分析、結果、考察まで丁寧にご指導していただきました。

③(1)今後あなたが研究をすすめるにあたって、何らかの改善をした方が良いと思う科目がありましたか。

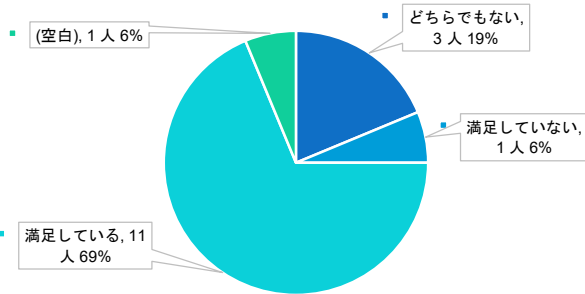


③(2)改善したほうがよいと思った科目名、(3)理由

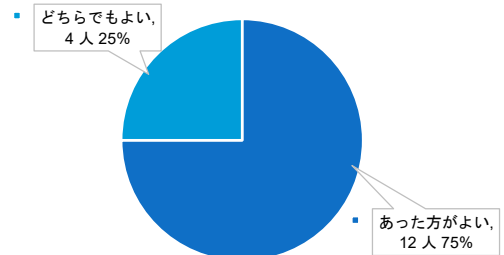
所属	科目名	理由
地域文化研究科	課外の科目履修の際、専門性が強すぎる場合。	講義内容の充実
地域文化研究科	日本語領域の科目が少ない	日本語領域の科目を増やしてほしい

6.あなたの研究に関する現在の指導体制・環境についてお尋ねします。

①現在の指導体制・環境に満足していますか。



③指導体制、方法、環境に関して、入学前に担当教員によるオリエンテーションがあった方がよいですか。



②満足できない理由（①で「満足していない」または「空欄」で回答した方）

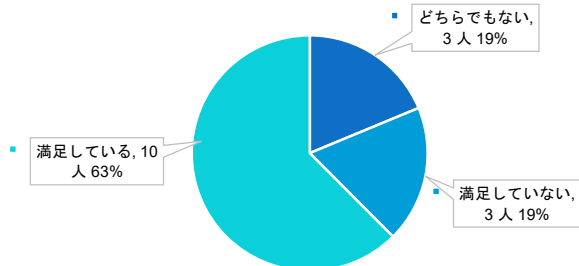
所属	理由
地域文化研究科	自身のレベルが低く、思ったように研究ができなかったため
地域文化研究科	講義数が少ない

④その他、指導体制、方法、環境に関するご意見やご要望

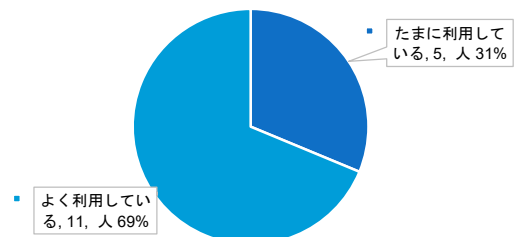
所属	ご意見・ご要望
地域文化研究科	良質な論文の解説を最初に行なってもらおうと指標になる。
地域文化研究科	本学は博士課程を備えておらず、大学院進学を果たしたばかりの学生にとっての学兄は修士2年となる。これは翻って、その新人ともいべき進学・入学生たちに大学(学部)とは異なる大学院生としてのいろは、すなわち研究法や調査法、学外での活動(学会活動など)を教えるのは多くの場合、指導教員のみとなるということである。だが週1の講義のみではその機会はなかなか難しく、また指導教員にとっても大学院生のみ集中的な教育活動を行うのは難しく、現実的ではない。 入学前のオリエンテーションにおいて大学院がどのようなところなのかという内容を十分に話すと共に、同研究科同士での積極的な研究活動報告等の交流が行える環境を作るよう、後学の諸氏のためにもこの要求を希望したい。

7.大学院の施設・設備についてお尋ねいたします。

①大学院の研究や論文作成のための施設・設備に満足していますか。



③講義や課題や論文の作成にあたり、大学の設備（研究室及び図書館等）を利用していますか。



②満足していない理由（上記①で「満足していない」と回答した方のみ）

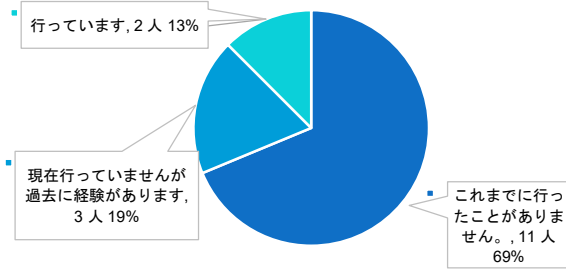
所属	満足していない理由
地域文化研究科	論文の掲載されている雑誌、機関誌の取り扱いが少ない。文献複写を利用しているが、元々の取り扱いが少ないため、かなりの頻度で利用するのでかなりのお金と時間がとられる。
地域文化研究科	PC設備が良くないから。
地域文化研究科	各研究科ごとに用意されている研究室は一部の専攻にどうしても利用が集中されやすく、とても研究活動に集中できる環境ではない。また先行研究の読解が重要となる人文社会学領域の学生において、資料に限りのある(往々にして考古学関連報告書ばかり)共同研究室横の資料室も使い勝手は宜しくない。PC室においても利用学生の需要に反してコピー機の数に足りてない場合が多い。(故障中という場合の割合がかなり多いため) まだ大学院生にとって研究活動は指導教員との緻密な連携が必要となるが、現状互いの研究室は距離があり、面倒である。 難しい要素ばかりであるが、改善を望むものである。

④その他、大学院の施設・設備に関するご意見やご要望

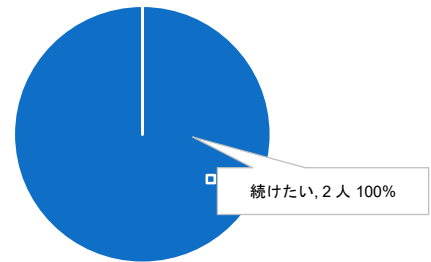
所属	ご意見・ご要望
地域文化研究科	長時間勉強することが多く、立って作業できる机があると助かる
地域文化研究科	持ち込みのカセットテープやVHSの資料をを利用できるようにして欲しい。データ化ができる設備だとお良い。
地域文化研究科	人数の多いクラスが、研修室で和気藹々されると、入りづらい時がある。基本、静かに使うマナーが欲しい。
地域文化研究科	図書館が11時には閉まるので、もう少し長く開いていると、特に修論提出間近の時などは助かる
地域文化研究科	前述に同じ
地域文化研究科	個人的に自宅が遠く、泊まり込みできたら有難いと思うことがあった。

8.教育支援者（TA・SA）制度についてお尋ねいたします。

①あなたは、現在、教育支援者（TA・SA）として、学部授業のサポートを行っていますか。



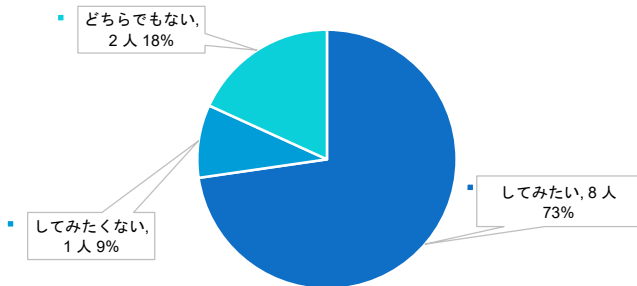
②教育支援者（TA・SA）を続けたいと思いますか。



③.上記②の回答理由

所属	理由
地域文化研究科	自分の論文やレポートなどを俯瞰して見られるようになり、他の世代と関わる機会になっているから。
地域文化研究科	自分の経験と勉強になるため

④教育支援者（TA）経験の無い方へ質問です。教育支援者（TA）の経験をしてみたいですか。

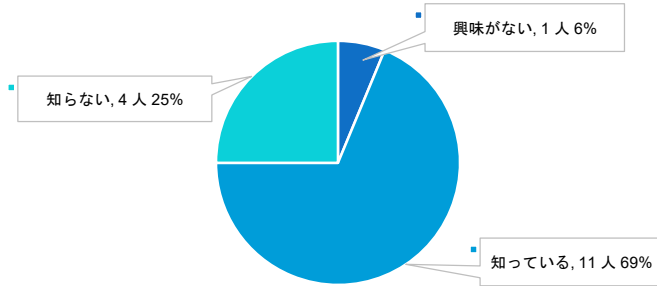


⑤上記④において、その回答を選んだ理由は何ですか。

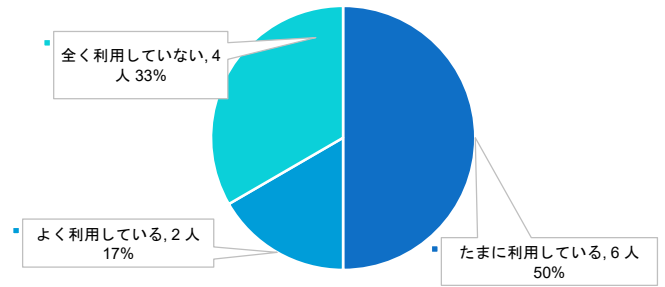
所属	④の回答	理由
地域文化研究科	してみたい	大学院生としての経験を積みたいから。
地域文化研究科	してみたい	経験としてやってみたい
地域文化研究科	してみたい	教員の近くで経験を積みたい
地域文化研究科	してみたい	教えることで自分の学びにもなるため。
地域文化研究科	してみたい	教員を目指していたため
地域文化研究科	してみたくない	時間をとられるから
地域文化研究科	してみたい	今まで仕組についてレクチャーがない。
地域文化研究科	してみたい	学部生との交流がほしい
地域文化研究科	してみたい	大学院生において修士論文執筆により調査研究能力を鍛えるのは当然なのだが、これに重ねて学会などの運営活動、また後学(学部生)の教育を行うというの必要な鍛錬であると考え。これは修士課程のみである本学でも同様と考えているが、沖縄(地方)という特性上、学会運営能力を鍛錬するという機会は少ない。希望者のみかつ当人の修士論文の進捗によると思うのだが、TAの機会を積極的に与えると、その大学院生当人の助けになると思われるため。
地域文化研究科	どちらでもない	具体的な手順が不明で、思い浮かばないため。
地域文化研究科	どちらでもない	仕事もあるのでできるかわかりませんが、機械があれば検討したいと思ったからです。

9. 本学に付置している研究所についてお尋ねいたします。

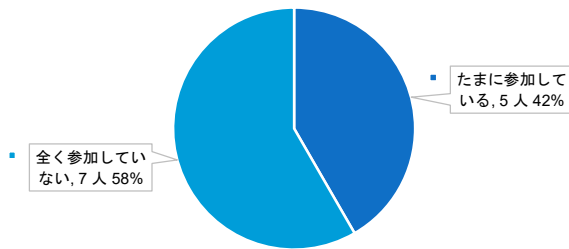
① 本学にある4研究所（南島文化研究所、産業総合研究所、沖縄法政研究所、沖縄経済環境研究所）を知っていますか。



② 本学の研究所の施設を利用したことがありますか。



③ 本学の研究所が主催する「研究会」などのイベントに参加したことがありますか。



10. その他、ご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。（時間数、科目の種類など）

所属	ご意見・ご要望
地域文化研究科	言語学系の科目を増やして欲しい。院生のキャリア支援も行なって欲しい。資格取得の際の費用還付、学会の年会費サポートや、県外への研究会参加や就活の際の費用支援など。
地域文化研究科	院の内容について、公立の小中学校の教員に周知するのもいいと思う。学び直しや専門性の向上を希望する者もいると思う。
地域文化研究科	資格取得した際のキャリア助成金サポートについて、院生にも学部生と同じようにサポートがあれば、嬉しい。特に、院に進学したことによって、学業に励むモチベーションが高まり、これまでに4回ほど検定試験等を受験してきたけど、どれも学部生は対象で、院生は対象ではなかったので、ちょっと残念だった。仕事やバイトをしながら院に通っている人が多いと思うけど、やはり学業との両立は難しく、収入も進学前と比べると少し減っている人も多いかと思うので、キャリア助成金サポートがあれば嬉しい。そうしたら、もっと多くの院生が試験等を受験するきっかけにもなると思う。対策講座等も無料で開講されているので。